

## ありがとうの手紙コンテスト



いつの時代も、未来を担う子どもたちの育成支援は国や地域社会の最重要課題の一つです。ファミリーマートは、全国に展開する店舗や本部社員など、企業の「資源」を活かした多様な次世代育成支援活動を、地域社会とともに年間を通じて行っています。

### ●小学生対象 ファミリーマート 「ありがとうの手紙」コンテスト

「ありがとう」の気持ちを素直に伝える大人に成長してもらいたとの思いから、2009年より「ファミリーマートありがとうの手紙コンテスト」を開催しています。

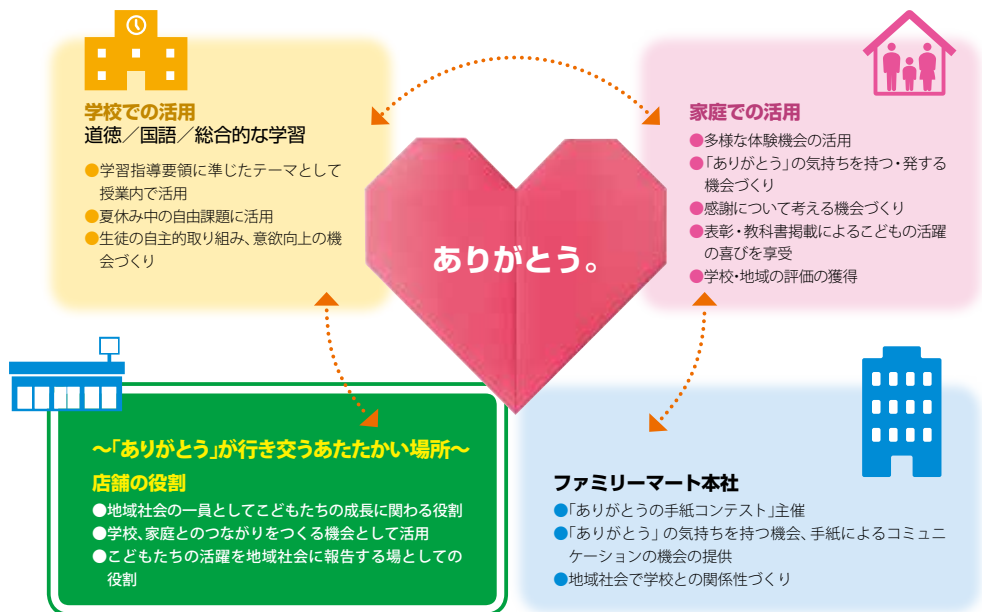
ジャーナリストの池上彰さんを審査員長として迎え、最優秀作品賞、審査員特別賞、学校・団体賞が選出されます。

これまでの応募作品は約25万件にのぼり、応募作品は道徳の副読本にも掲載されました。

**目標** 地域社会とともに次世代を担う子どもたちの健全な成長を支援

**課題** 国内の7人に1人の子どもが貧困状態にある(※)。「子どもの貧困」問題に対する対策、及びそれによる学習機会などの教育格差の改善支援(※厚生労働省による)

審査員長の池上彰さんからは「相手を大切に思い、感謝の気持ちを手紙で伝えることは、子どもたちの成長につながります」と、コンテストが果たす社会的な役割を評価していただいております。今後も、地域の学校・家庭とファミリーマートが連携しながら、子どもたちの「ありがとう」の気持ちを醸成していきます。



## Close Up!

### お店が中心となって、地域に「ありがとう」の輪を広げる。

蔭山馬堀海岸店(神奈川県横須賀市)

京浜急行馬堀海岸駅から徒歩約5分。古くからの住宅地の一角にある蔭山馬堀海岸店は、1998年の開店以来、地域に密着した経営を行ってきました。

「元々、地元で長年食品スーパーを営営していましたので、地域密着は当然のこと。地域の祭事、イベントなどにも積極的に参加してきました」(蔭山卯栄基オーナー)

そんな同店がより地域との関りを深めることになったのがファミリーマートが主催する「ありがとうの手紙コンテスト」です。その趣旨に賛同し、積極的に参加しています。

「ふだんはなかなか言えない『ありがとう』の思いを、手紙にして家族に伝える。パソコンやスマホが当たり前の時代だからこそ、ぜひ子どもたちに書いて欲しいと思いました」(蔭山葉子店長)

そして、蔭山オーナーの母校でもある近隣の横須賀市立馬堀小学校を訪れ、コンテストの趣旨を説明。以来毎年、同校1年生からの応募が続いています。

今年も同校を訪問し、木屋哲人校長先生と1年2組担任の井岡あずさ先生に面会。井岡先生は、道徳と国語の授業に「ありがとうの手紙」を取り入れたいと話してく

れました。

「この授業を通じて、子どもたちに、人に感謝する気持ちと作文の基本を学んでもらえたらと思っています」(井岡先生)

応募していただいた作品は毎年、同校と子どもたち、そして保護者の皆さまのご承諾を得て店内に掲示しています。

「その作品を、笑顔で、時には涙を拭いながら読んでいるお客さまの姿を見ていると、当店が学校と地域をつなぐ役割を果たしていることを改めて感じます」(蔭山店長)

「感謝の言葉を手書きで伝える機会が少なくなっている今だからこそ、この取り組みは意義があります。今後も、子どもたちの成長のために取り組んでいきたいと思っています」(蔭山卯栄基オーナー)

「ありがとうの手紙コンテスト」は、お店が中心となって、子どもたちを育み、地域に「ありがとう」の輪を広げていきます――。



店内に掲示された「ありがとうの手紙」。



馬堀小学校で「ありがとうの手紙コンテスト」の概要を説明する蔭山葉子店長と奥が蔭山卯栄基オーナー。



馬堀小学校の井岡先生(左)に応募要領をお渡しする蔭山店長。

「学校は地域とのつながりなくして成り立ちません。その意味で『ありがとうの手紙コンテスト』は、ファミリーマートのお店が中心になって地域と学校とのつながりを深めてくれています。とてもありがたく思います。また、蔭山さんのお店のように店内に作品を掲示していただくことで、子どもたちの姿を地域の人たちが見ることもできます。今後も活用させていただければと思っています」



横須賀市立馬堀小学校 木屋哲人校長先生

## 地域とともに次世代の成長を育む



### ファミリーマートでお仕事体験

## こども店長

こどもたちにファミリーマートのお店で仕事を体験していただく取り組みです。楽しみながら社会の仕組みを学ぶ機会として、たくさんのこどもたちと保護者の皆さまからご好評いただい

おります。  
参加したこどもたちからは「初めてのことばかりで楽しかった！またやってみたい！」「自分が並べた商品が売れてうれしかった！」、保護者の皆さまからは「普段なかなか見れないこどもの姿が見られて親としても貴重な経験になった」「引込み思案なこどもが積極的になり、成長を実感できました」などの声が寄せられています。

### ★参加したこどもたちの声★

自分の並べた商品が売れて嬉しかった！

大きくなったらファミマの店長になりたい！

お母さんのお買物のレジができて楽しかった。夏休みの作文に書きたい！



ドキドキしたけど、お店のスタッフさんがやさしく教えてくれたので楽しかった。



お客さまが笑ってくれたので、うれしかった。

家でたくさん練習してきたから、うまくできた。

### ●保護者の皆さまの声●

夏休みの楽しい思い出のひとつとなりました。

コンビニの裏側も見ることができて、こどもだけでなく大人も楽しめました。

身近なコンビニで職業体験ができて、こどもたちの勉強になりました。

自分のこどもが知らないお客さまに「ありがとうございました」ときちんと言えていて、成長を感じました。

### ■店長より■

こどもたちの育成につながり、地域の皆さまにも喜ばれ、交流も深められると思い、2013年5月から定期的に開催しています。ストアスタッフも、「こども店長」が話のきっかけとなってお客さまと自然な会話ができるようになりました。常連になっていただいたお客さまも増えています（下館八丁台店<茨城県筑西市>の石塚店長）。

### ★こども店長実施状況（2016年度）

実施店舗数 実施件数 参加者数  
**106**店舗 **145**件 **約750**店舗

### 社会人としての成長を支援

## 出前授業

ファミリーマートの社員が講師を務める「出前授業」を中学校・高校等で行っています。「ファミリーマートのビジネスモデル」「環境対応について」「販売指導」など、社員の職能と専門的知識を活かした授業の他、「総合的な学習」の授業の中で、地域社会が抱える課題とコンビニエンスストアの役割について一緒に考える「課題解決学習」も行い、生徒たちの考える力を育てています。2016年度は、昨年度に引き続き大阪市立野田



中学校2年生の「課題解決型学習」に協力し、課題の提供を行ないました。

第1回目の授業では、コンビニエンスストアの仕組み、少子高齢化・グローバル化などの社会背景や社会課題について説明し、授業の課題が発表されました。

グループ討議を重ね、12月の中間発表を経て、生徒たちが考える「10年先の地域社会が抱える問題を解決し、お客さまに喜んでいただけるファミリーマート」の最終プレゼンテーション（結論発表）が3月に行なわれました。

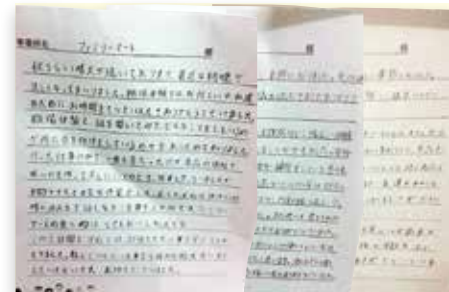
また2012年から、東日本大震災で被災した岩手県大船渡市の末崎中学校の2年生を対象に、同地の特産品であるワカメの「販売・接客の心得」をテーマにした出前授業を、毎年実施しています。



### 実体験を通じて仕事のやりがいを学ぶ

## 職場体験

地域の中学校の「職場体験」に、ファミリーマートの店舗が協力しています。店長やストアスタッフから、挨拶やレジでの袋詰め、商品の前出しなどを教わりながら、仕事のやりがいについて、実体験を通じて学ぶ機会を提供しています。



店舗で職場体験を実習した中学生から届いた感想文。

## 地域とともに次世代の成長を育む



働くことの意義や喜びをお伝えする

### 企業訪問

中学生や高校生が社会学習の一環として企業について学ぶ「企業訪問」に積極的に協力しています。

修学旅行や課外授業等の機会に行われるもので、東京・池袋のファミリーマート本社を訪れた生徒の皆さんに、ファミリーマートの歴史や本部の仕事の内容、コンビニエンスストアの仕組みや商品、サービス、社会インフラとしての役割な

どについて講義。「働くことの意義や喜び」「社会との関わり」をお伝えすることで、キャリア形成を支援しています。



「ご当地！絶品うまいもん甲子園」に協力

### ファミマものづくりアカデミー

農林水産省が主催する高校生最大の料理コンテスト「ご当地！絶品うまいもん甲子園」(\*)に協力し、各エリア選抜大会の代表校を対象にした「ファミマものづくりアカデミー」を2015年

度より開催しています。

商品開発についての講座や工場見学の機会を提供し、学んでいただくとともに、コンテスト作品を商品化し、地域の活性化にも貢献。各エリアの店舗で販売も行っています。

(\*)「ご当地！絶品うまいもん甲子園」……全国の高校生を対象に、ご当地食材を使ったオリジナルレシピを、開発・調理・プレゼンテーションで競い合う料理コンテスト。食を通じて農林漁業の大切さを伝え、高校生の夢を応援し、地域を盛り上げ日本を元気にすることを目標としています。



## ベルマーク活動



次世代を応援する活動を、販売している商品を通じて取り組む「おむすび全品にベルマーク」をつける活動。ファミリーマートはベルマーク協賛企業としてベルマークをつけるだけでなく、全店でのベルマーク回収にも取り組んでいます。

### コンビニエンスストアで唯一の取り組み

「おむすびにベルマーク」は、小売ではファミリーマートだけの取り組みです。さらに2016年9月からは、サークルK・サンクスの店舗でもベルマーク付きおむすびに切り替り、現在は全国約1万8,000店舗で販売しています。

また、店頭のおむすび売場に専用の「ベルマーク回収BOX」を設置しており、地域のベルマーク回収拠点としての役割を果たしています。



### 被災地の子どもたちを支援！

「ベルマーク回収BOX」にお寄せいただいたベルマークは、各店舗が近隣の小学校に寄贈しています。

また、ファミリーマート池袋本部や食品製造委託工場でもベルマークを収集。2011年からは東日本大震災で被災した地域の学校に、2016年は平成28年熊本地震の被災地の小学校に寄贈しました。



### この9年間で10倍に増加！

ファミリーマートのベルマーク活動は地域の皆さまに浸透しており、ファミリーマートでお預かりしたベルマークの数も、取り組み1年目の2008年度と比べ、本部内のベルマークだけでこの9年間で約10倍に増加しています。

本部内でのベルマーク収集点数

●2008年度  
14,260.3点

●2016年度  
144,896.0点

## 店頭募金 「ファミリーマート夢の掛け橋募金」

ファミリーマートは1993年にコンビニエンスストアとして初めて店頭で募金箱を設置しました。2006年からは「ファミリーマート夢の掛け橋募金」として、NGO・NPOへ寄付しています。

### 世界の子どもたちと地球の未来のために――。

店頭でお預かりしたファミリーマート夢の掛け橋募金は、(株)ファミリーマートからの企業寄付(マッチングギフト\*)と合わせて、下記4団体に寄付し、世界の子どもたちと地球の未来のための

活動に役立てられています。また、大規模災害の発生時には「災害義援金募金」に切り替え、被災地支援を行っています。

\* マッチングギフト・募金総額に対して、企業などが一定率を掛け金額を上乗せして寄付すること。



#### 寄付先との主な取り組み

### アジアの子どもたちの命を守る防災教育を実施 「ファミリーマートグローバル子ども募金」

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンとの「グローバルパートナーシッププログラム契約」に基づき、ファミリーマートが出店する国・地域で、子どもの命を守る「防災(災害リスク軽減)教育」プログラムに用途を限定した「ファミリーマートグローバル子ども募金」を2014年度から毎年4月に実施しています。

このプログラムには現地法人の社員がボランティアで参加。防災・減災教育に貢献しています。

●「ファミリーマートグローバル子ども募金」寄付総額(2017年4月)  
(公)セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンに用途指定寄付

ファミリーマート店頭募金金額(AFC*含む)	23,103,351円
Famiポート募金金額(2016年5月～2017年4月分)	405,000円
株式会社ファミリーマート マッチングギフト	2,050,000円
合計	25,558,351円

\* AFC=エリアフランチャイザー

### 幼稚園・保育園全国巡回型プログラム

#### 森の教室～どんぐりくんと森の仲間たち～

幼稚園・保育園児が劇やどんぐり植え、育苗を通じて、森林がもつ様々な役割を学び、森づくりに参加する公益社団法人国土緑化推進機構主催の全国巡回型プログラム「森の教室」を支援しています。

2012年に、福島第一原発事故で被災した福島県富岡町から郡山市に避難していた保育園児と幼稚園児を訪ねたことからスタートし、これま

で24都道府県で開催。のべ1万5千名を超える園児たちが参加しています(2017年7月末現在)。「森の教室」には、開催される地域の店舗、ファミリーマート社員も参加。園児たちとの触れ合いを深めています。



### 森や海・川の名人から知恵や技術を学ぶ 聞き書き甲子園

「聞き書き甲子園」は、高校生が日本全国の森や海・川の「名人」を訪ね、知恵や技術、人生そのものを「聞き書き」し、記録する活動です。

参加した高校生は、名人との世代を超えた交流を通じて、森林や海からの豊かな恵みやそこに暮らす人々の営み、地域の伝統・文化などについて学び、その成果を報告会や作品集で発表します。

### 国連WFPコーポレートプログラム ミャンマー学校給食支援

ミャンマーは経済発展が不十分なため、国の約15%の人口は栄養不足で、5歳未満の子どもたちの35%が発育阻害であると言われています。国連WFPを通じ「ミャンマー連邦共和国・学校給食



ファミリーマートはこの活動に賛同し、2005年から、主催する公益社団法人国土緑化推進機構

認定NPO法人共存の森ネットワークに対する寄付活動による支援や、事前研修や報告会への社員派遣など、特別支援を継続して行っています。

プログラム」を支援し、未就学児と小学校の児童に、栄養強化ビスケットを支給する活動を進めています。



### 被災地域の次世代支援

#### TOMODACHI コンビニ基金

「TOMODACHI イニシアチブ」は、公益財団法人米日カウンシル・ジャパンが、米国政府(米国大使館)協力のもと、日本政府、日米企業、団体、個人から支援を受け、日米両国の未来の世代へ向けた投資として、教育交流、文化交流、指導者育成プログラムを提供。次世代の育成支援を通じて、日米間のつながり強化や友好を深めています。



ファミリーマートは2013年秋から被災地域の次世代支援を目的としたプログラム提供を行うため、店頭募金の寄付先として支援を行っています。

2017年は3回目となる、福島県内の高校2年生の女子生徒を対象としたキャリア支援プログラム「TOMODACHI 女子高校生キャリアメンタリングプログラム in 福島」を支援。約半年かけて、女子高校生たちが普通の生活では出会うことのない様々な年代、国籍、経験を持つ先輩女性たちとのセッションを行い、自分自身で未来を切り拓く力をつけることを目指します。